

【全体】

Q1 今回発表した自己株式取得(150億円)について。2月にも100億円取得していますが、株主還元方針について教えてください。

A1 総還元性向50%以上を株主還元方針としています。今年2月に発表した100億円の自己株式取得は、2016年度に対する還元です。今の配当を前提にすると配当額が230億円程度なので合わせて380億円程度になります。親会社に帰属する当期純利益の予想640億円で考えると、総還元性向は約59%となります。

Q2 4Q見込みについて。決算資料に記載されている説明を総合すると、通期の営業利益は1,150億円+ α となるのではないかと思います。1,150億円は超過達成できそうというメッセージと捉えて良いでしょうか？

A2 どのくらいかはお話しできませんが、今時点では超過達成できると考えています。

【ガラス】

Q1 前年比で欧州の建築用ガラスの価格が上がったとのことですが、2Q比ではどうでしょうか？

A1 欧州の建築用ガラスは2Q⇒3Qではクリアフロート価格はほとんど変わっていません。クリアフロートの価格は良いレベルになってきているので、足元の価格上昇はわずかです。クリアフロート以外の製品は価格上昇の余地があります。

Q2 2Qで説明のあった欧州自動車用ガラスのコスト増の状況を教えてください。

A2 現時点ではボトムは抜け、良い方向に向かっています。ただし、供給量が不足しているため、供給量不足の解消という意味では建設中のモロッコの稼働が必要です。

【電子】

Q1 電子セグメントの増益に対するディスプレイと電子部材のそれぞれの寄与を教えてください。

A1 電子セグメント全体としては、ディスプレイは前年比で減益基調ですが、電子部材でカバーして昨年を若干超える利益が出ている構造です。2Q→3Qの増益要因はディスプレイと電子部材でほぼ同程度の水準です。

Q2 液晶用ガラスの価格について。前年比で減益基調とのことですが、数量増加でカバーして利益が減らなくなるような価格下落幅になるのでしょうか？

A2 以前より価格下落とコストダウンを平衡状態に持っていきたいと考えていました。現地通貨高がコストアップになりましたが、それを除けばその状態にかなり近づいています。今年、電子セグメント

全体で若干でも昨年増益にできれば2010年以来の通期増益となるので、狙っていきたいと考えています。

Q3 電子部材で伸びている製品を教えてください。

A3 電子部材は季節性があり、上期よりも下期に出荷が増えるのが例年の傾向です。電子部材の主たる製品(半導体関連部材と光学部材)が概ね好調です。例えば、CMPスラリー、光学部材、EUVマスクブランクスが順調に伸びています。

Q4 スマホ用カバーガラスと車載用カバーガラスの出荷動向、業績影響を教えてください。

A4 いずれも昨年比で数量が伸びています。特に車載用はかなり出荷数量が増えていますが、新事業の立ち上がり途上のため、今年の業績寄与はほとんどありません。

【化学品】

Q1 化学品の4Q見込みは3Q比で増益幅は小さいとのことですが、例年は3Q→4Qはライフサイエンス等によりかなり増益する傾向ではないでしょうか？

A1 例年、ライフサイエンスは4Qに出荷が増えますが、今年は4Qの伸びは限定的です。また、クロアリ事業も現時点でかなり高いレベルにあるので、例年のような大きな増益は難しいと考えています。

Q2 東南アジアのクロアリ事業について。原料のエチレンが7月からかなり急騰していますが、価格急騰の影響は3Q決算にどのくらい影響が出たのでしょうか？

A2 エチレン価格はかなり上がりましたが、塩ビもタイトなためスプレッドはそれほど悪化していません。エチレン価格が上がった分は価格転嫁できています。苛性ソーダもタイトで価格が非常に高いレベル。現時点でエチレン価格がクロアリ事業を減益とするインパクトはないと考えています。シェールガス由来製品が来年にかけて北米で大規模増産されるので、長期的にはエチレンの価格も下がっていくと考えています。

以上